

寺川 純平 (ゲノム編集・疾患モデル) ・伊藤 潤哉 (分子生殖科学)
 ・鴨下 真紀 (生殖技術開発) ・加瀬 ちひろ (応用動物行動学)
 ・山本 蒼士 (動物時空間解析) ・片平 浩孝 (環境生物学)

研究の背景

動物園・水族館は、教育、調査研究、種の保存など多様な役割を担うとともに、レクリエーションの場としても重要な機能を果たしています。近年では、野生個体の新規導入が困難になりつつあり、希少動物を持続的に飼育・展示していくためには、生物学的知見に基づいた適切な繁殖管理がこれまで以上に重要となっています。一方で、野外では個体数の増加により管理や駆除が必要となる動物種も存在しており、動物の繁殖や生殖に関する理解は、多様な場面で求められています。

本プロジェクトでは、動物園・水族館における展示動物の持続的な繁殖管理を目指し、入手可能な動物検体を用いて、生殖に関する基礎的知見の収集・解析を行うとともに、現場で活用可能な新たな技術の開発に取り組みます。



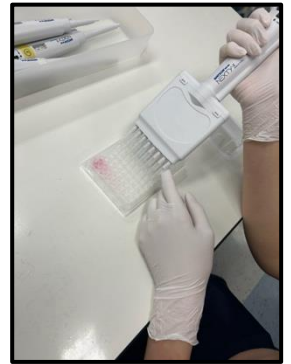
アプローチ

本プロジェクトでは、動物園・水族館で飼育される展示動物や野生動物を対象として、入手可能な検体を用いた生殖学的解析を進めます。具体的には、去勢手術後に得られる生殖器や、死亡個体から採取された組織などを活用し、生殖機能や繁殖に関する基礎情報の収集を行います。

また、連携可能な動物園・水族館、研究機関、関連団体などから検体提供を受け、各動物種の特性にに応じた解析を実施します。

現在進めている研究課題例

- ・海洋哺乳類の妊娠に関わるホルモン動態の解析
- ・鳥類における簡便な性判別技術の開発
- ・野生動物由来の生殖組織標本の作製と解析



期待される結果

本プロジェクトを通じて、動物園・水族館などの現場で活用可能な繁殖管理技術の開発につながることを期待されます。また、生殖に関する基礎データの蓄積を進めることで、希少動物の繁殖管理や種の保存に必要な科学的知見の充実に貢献できると考えられます。

さらに、多様な動物種の生殖特性を比較・解析することで、動物の繁殖生物学に関する理解の深化にもつながることが期待されます。

募集方法

選抜方法：学業成績および教員との面談・やる気 **募集人数**：3名程度

連絡方法：学内g-mail, google chat

そのほか：基本技術の習得のため実験動物を用いた解析を行うことがあります。

動物の臓器を取り扱う可能性があります。学外での活動を行う場合があります。

学生に対するメッセージ：「麻布大学から世界に研究成果を発信したい！」と考え、真剣に研究活動に取り組んでいます。地道な作業が多く、期待どおりの結果がすぐには得られないこともあるかもしれませんが、それでも「やってみたい！」という気持ちを強く持ち、**粘り強く継続的に取り組める**学生の応募を歓迎します。